

聖書メッセージ 人の知恵には限界がある

伝道者の書 9章 1～12節

- 1 まことに、私はこの一切を心に留め、このことすべてを調べた。
正しい人も、知恵のある者も、彼らの働きも、神の御手の中にある。
彼らの前にあるすべてのものが、それが愛なのか、憎しみなのか、人には分からない。
- 2 すべてのことは、すべての人に同じように起こる。
同じ結末が、正しい人にも、悪しき者にも、善人にも、きよい人にも、汚れた人にも、
いけにえを献げる人にも、いけにえを献げない人にも来る。
善人にも、罪人にも同様で、誓う者にも、誓うのを恐れる者にも同様だ。
- 3 日の下で行われることすべてのうちで最も悪いことは、
同じ結末がすべての人に臨むということ。
そのうえ、人の子らの心が悪に満ち、生きている間は彼らの心に狂気があり、
その後で死人のところに行くということだ。
- 4 しかし、人には投げ所がある。生ける者すべてのうちに数えられている者には。
生きている犬は死んだ獅子にまさるのだ。
- 5 生きている者は自分が死ぬことを知っているが、死んだ者は何も知らない。
彼らには、もはや何の報いもなく、まことに呼び名さえも忘れられる。
- 6 彼らの愛も憎しみも、ねたみもすでに消え失せ、日の下で行われることすべてにおいて、
彼らには、もはや永遠に受ける分はない。
- 7 さあ、あなたのパンを楽しんで食べ、陽気にあなたのぶどう酒を飲め。
神はすでに、あなたのわざを喜んでおられる。
- 8 いつもあなたは白い衣を着よ。頭には油を絶やしてはならない。
- 9 あなたの空しい人生の間、あなたの愛する妻と生活を楽しむがよい。
彼女は、あなたの空しい日々の間、日の下であなたに与えられた者だ。
それが、生きている間に、日の下でする労苦から受けるあなたの分なのだ。
- 10 あなたの手がなし得ると分かったことはすべて、自分の力でそれをせよ。
あなたが行こうとしているよみには、わざも道理も知識も知恵もないからだ。
- 11 私は再び、日の下を見た。競走は足の速い人のものではなく、戦いは勇士のものではない。
パンは知恵のある人のものではなく、富は悟りのある人のものではなく、
愛顧は知識のある人のものではない。
すべての人が時と機会に出会うからだ。
- 12 しかも、人は自分の時を知らない。
悪い網にかかった魚のように、罠にかかった鳥のように、
人の子らも、わざわいの時が突然彼らを襲うと罠にかかる。

人の知恵には限界がある

伝道者の書9章より 2021/9/19

I. 「伝道者の書」の構成

伝道者の書(935-931BC)		神から離れた人生の空しさ					
「すべては空しい」		「働くことの空しさ」		「知恵には限界がある」		「神を畏れよ」	
1:1-11		1:12-6:9		6:10-11:6		11:7-12:14	
問題提起	問題を詩で表現	個人的な観察	一般的な観察	主権を持つのは神	人間は無知	喜びと責任感のある生き方	神の裁きに備えよ
1:1-3	1:4-11	1:12-2:17	2:18-6:9	6:10-8:17	9:1-11:6	11:7-12:7	12:8-12:14
問題		実験		忠告		結論	
視点 : 「日の下」 観察可能な世界							

II. 「伝道者」の疑問と提言（現代人も共感できる）

1. どんなに真面目に生きても、不真面目な人と結末は同じ（1～3、6節） **死** **よみ(シェオル)**

- 9:3 「狂気」は「暗愚」とも訳せる
- キリストの復活はナポレオンの存在よりも証拠が確か
六甲の摩耶山 YMCA での経験
- 死後の行先は生きている間に決まる
- 「信仰」(事実に基づく)と「信心」(感情に基づく)の違い

1 コリント15:32

もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。

2. 生きているうちが花。死んだら元も子もない（4、5節）

- 生きてさえいれば何とかなる。
- 「憎まれっ子世に憚る」（厚かましい人は嫌われるけど長生きできる）
- 犬ですら訓練によって高貴な生き方をする。盲導犬(聴導犬、介助犬)の不服従訓練。



ヨハネ15:13

人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

3. 今を楽しめ。(それさえできない日が来るのだから。)(7～10節)

- ありふれたパン、ワインさえすばらしい。おしゃれ。
- 妻を大切に。本木(幹)に勝る末木(枝)なし。
- 元気なうちにやりたいことをやっておく。(ソロモンは死後の世界を不活動の時と捉えていた。)

ルカ19:16, 17 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

4. 思いがけない幸運（11節）（例）十字架の強盗

ルカ23:39～43 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことへの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

